

第53回鏡花文学賞授賞式ボランティア活動 ～文学・文芸を通じて地域を考える～

団体名●山田プレゼминаール／代表者名●山田範子（女子短期大学部・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

鏡花文学賞は、日本の近代文芸に大きな足跡を残した金沢市出身の文学者・泉鏡花の功績を顕彰するために制定された「泉鏡花文学賞」と、金沢市民の文芸活動の充実と発展を目的として設けられた「泉鏡花記念金沢市民文学賞」の二つの賞から成り立っている。

文学・文芸を研究する山田プレゼминаールでは、泉鏡花『高野聖』の解釈や文体の特徴について議論してきた。このような学びを教室内にとどめるのではなく、実際の文学賞授賞の場に触れることで、地域と連携しながら文学の意義や継承のあり方を体感的に理解したいと考えている。こうした趣旨のもと、本プレゼминаールでは今年度も第53回鏡花文学賞授賞式にボランティアスタッフとして参加することとした。

活動内容(活動回数1回、参加者4名)

鏡花文学賞授賞式のボランティアとして、受付や受賞者の誘導など運営を支える役割を担い、授賞式をスタッフの立場から支える経験をした。



成果、結果の考察

本活動に参加した学生の感想を以下に示す。

< A さん >

この文学賞が53年もの長きにわたって続いているのは、多くの人のチームワークによって支えられ

ているからだと感じました。また、受賞者のお二方のスピーチを聞き、作品が生み出される背景には人との関わりや環境が影響しており、その積み重ねが読む人の心を打つ作品を生み出しているのだとわかりました。

< B さん >

授賞式がどのように進行しているのか、お客さん側ではなくスタッフの立場から知ることができ、多くの学びがありました。授賞式に参加された地域の皆さまと交流する機会もあり、とても楽しく充実した時間になりました。また参加したいと思いました。

< C さん >

会場にいらっしゃった市民の皆さまや、他のボランティアの方々が普段から文学に親しんでいることを感じ、とても印象に残りました。金沢は文学と深い関わりがあり、広く親しまれていることがよく伝わってきました。また、私は公務員志望なのですが、授賞式の運営に携わる中で、市役所の皆さまのお仕事の一端を知ることができ、参加して本当に良かったと感じています。

< D さん >

私は受付を担当したのですが、初めて経験することばかりで、とても良い学びになりました。作家さんの貴重なお話を生で聞いたことは、今後忘れられない経験になると思います。このボランティアに参加して良かったです。

今後の課題、展望

本活動を通して、文学が地域社会の中でどのように支えられ、受け継がれているのかを体感的に学ぶことができた。地域社会との関わりを通して得た気づきは大きな成果であった。今後は、このような実践的な学びを授業内容や学生の主体的な学修へとより一層結びつけていくことが求められる。